

飯田三郎資料展示室



〒087-0006 根室市曙町1丁目40番地
根室市総合文化会館内
電話 (0153) 24-3188
FAX (0153) 23-6172

開館時間 午前9時～午後7時
休館日 ・毎月第1月曜日（国民の休日の場合はその翌日）
・年末年始（12/29～1/3）
（令和4年11月に根室市図書館より根室市総合文化会館内へ移転しました）

●目的

郷土出身の作曲家・飯田三郎氏は“北国讃歌”“大いなる海”など郷土根室の曲を創られ、また“21世紀へのメッセージ”を創作寄贈され、その初演に際し、参加する市民への指導にも積極的に当られるなど、根室市民との関わりも深いことから、この功績を讃え、寄贈のあった資料を保管・管理する展示室を設置し、広く市民などに公開し、飯田三郎氏の人となりと業績を知ってもらうことを目的としたものです。

●飯田三郎氏プロフィール

大正元年12月20日根室市松ヶ枝町に生まれる。根室商業学校在学中に作曲を独学。

昭和8年、故郷根室を訪れたコロムビアレコードの作詞家、高橋掬太郎氏の勧めで昭和11年、掬太郎作詞の「愛のグラス」でデビュー。

昭和12年、コロムビアレコード社から専属の要請を受けて上京し池袋友次郎氏に作曲法・対位法を、山田和男氏に指揮法を学び作曲活動に専念する。

その後、タイヘイレコード社の専属となり、「別れの波止場」「進め愛馬よ」などを発表し活躍する。

昭和17年キングレコード社の専属となり、高橋掬太郎氏とのコンビで数々の作品を発表する。特に大衆歌謡「ここに幸あり」は、今やハッピーソングの名曲として高い評価を得て愛唱されている。

このことは郷土根室の大きな誇りであるため、これを讃え昭和60年根室市役所前庭に音楽碑を建立する。

氏の作曲分野は、大衆歌謡のみに限らず内閣総理大臣賞受賞曲・国民の歌「若い日本」や管弦楽「北海道組曲」「バリ島組曲」「オラトリオ蝦夷キリシタンの殉教」など交響楽を発表している。

また、映画音楽にも力を入れ、大映・京マチ子主演の「痴人の愛」など約70曲に及んでいる。

更に、ふるさと根室を主題に「国境の船唄」「新根室音頭」「新根室小唄」「大いなる海」「春はまた来る」「北国讃歌」「根室市の歌」、更に根室市総合文化会館の落成を記念して贈られた、北国からの交響的序曲「21世紀へのメッセージ」など、地方歌や校歌・社歌等々、根室・釧路関係の作品が多く、郷土音楽文化に多大な貢献をされた。

平成15年4月24日、90歳で逝去。

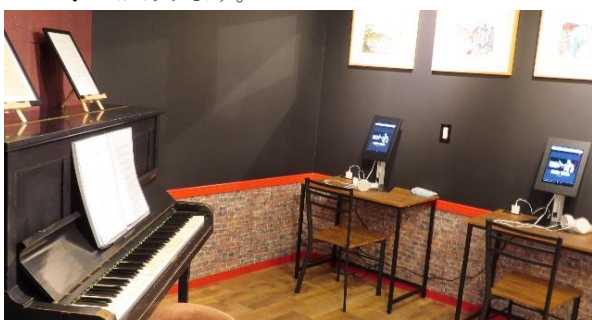
●生誕百十年記念音楽会

ふるさとの作曲家 飯田三郎生誕百十年記念音楽会実行委員会が主催し、令和4年11月26日根室市総合文化会館において、高橋掬太郎氏のご子息、歌手大津美子氏を迎え生前のエピソードを交えながら、飯田三郎氏の名曲の数々を響かせ、最後は根室の「第九」と市民に愛され、歌い継がれている交響組曲「北国讃歌」で音楽会を締めくくった。

▼「ここに幸あり」音楽碑（市役所前庭・昭和60年建立）



飯田三郎資料展示室には、自筆の譜面、レコードジャケット、年代別代表作品、カメラ等の愛用品を展示している展示コーナー、音と映像により先生の作品を紹介するパソコンコーナーの他、図書コーナー、談話コーナーがあります。



▲ふるさとの作曲家飯田三郎生誕百十年記念音楽会